

学習の仕方

日本語を五十音順に並べてあるが、まずは日本語に相当する英語を覚えてゆく。その際、できるだけ書いて覚える。目は全体をとらえるのには適した器官だが、細部をきちっととらえることが難しい。だから例えば「あほうどり (albatross)」を書く場合、語尾の **S** を重ねるのか重ねないのかの判断に迷う場合が出てくる。しかし、書いて覚えている場合は、**S** をひとつしか書いていないともうひとつ **S** を書こうとして手が勝手に動く感じがする。これなどまさに手自身が感覚的に覚えているといってもいいのだ。

訳語が2つある場合は、自分の覚え易いものを覚えたらよいのであって、2つとも覚える必要はない。ただし、「家元」のように意味が異なるものは2つ覚える。「栄養補助食品」のように、丸括弧によって挟まれているものは省略可能だから、実際には **supplement** だけを覚えればよいことになる。

このようにして最後まで行ったら、今度は最初に戻って、英語の部分を下敷きなどで隠し、日本語だけを見て英語が正確に書ける、あるいは思い出せるのなら、英語の頭にある□にチェックを入れ、それを最後までやる。

さらにまた最初に戻り、今度は日本語を隠し、英語をみただけでそれに相当する日本語が思い出せるのなら、日本語の頭にある□にチェックを入れる。要は英語を正確に書けるかどうかだから、この作業は必要ないと思われるかもしれないが、日本語から英語だけでなく、英語から日本語へ向かうアプローチは、記憶を確かなものにするには必要なことなのである。

是非頑張って最後までやり遂げていただきたい。